こくさいこうりゅう

国際交流ニュースレター

第14号　発行:名取市総務部総務課(平成20年9月30日)

特　集

マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ訪問団
オーストラリアからこんにちは！

中学生海外派遣事業の交流先でもあるマウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ（オーストラリア、ビクトリア州）から二十五人の生徒と三人の教諭が九月六日（土）～十日（水）まで名取市を訪問しました。

生徒たちは市内のご家庭に家族の一員として迎えられ、四泊五日のホームステイをしながら交流を深めました。

9月8日（月）名取市民会館小ホールで行われた交流会ではホストファミリーを始めたくさんの方が友好を深めました。

四回目の名取市の訪問

九月六日（土）、オーストラリア、ビクトリア州モナッシュ市にある「マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ」から二十五人の生徒たちと三人の随行の先生方が、名取市を訪問しました。同校の名取市訪問は平成七年度から始まり、今回で四回目の訪問となりました。

マウントウエイバリー校の生徒たちはホームステイをしながら名取市内の各中学校を訪問し、授業や学校行事に参加するほか、重要文化財でもある洞口家住宅（名取市大曲）や松島見学など四泊五日の日程でさまざまな体験をしました。

ドキドキの対面式

マウントウエイバリー校は二年に一度「ジャパン・スタディ・ツアー」を実施しており、大阪にある姉妹校でのホームステイを含めて約三週間の日程で日本を訪問しており、この訪問地となることもあり、対面式でのマウントウエイバリー校の生徒たちは少し緊張しているようでした。

「はじめまして！」この日のために日本語を覚えた生徒さんもいました。

訪問初日、皆さんから寄せられたたくさんのオーストラリアの絵画と絵てがみに囲まれ、ホストファミリーとの対面式が行われました。

それぞれ自分のホストファミリーと対面し、暖かく迎えられると喜びに満ちた表情で家族の一員となりました。いよいよホームステイの始まりです。

名取市国際交流実行委員会
絵画・絵てがみコンクール入選者発表

オーストラリアをテーマにした絵画でマウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ訪問団を歓迎し、また自由題材の絵てがみを募集したところ、絵画137点、絵てがみ37点の作品が集まりました。9月6日（土）マウントウエイバリー校対面式前に絵画・絵てがみコンクールを開催し、次の作品が選ばれました。

●マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ賞

【絵てがみコンクール】

内崎　芙美子さん（ゆりが丘）

【絵画コンクール】

跡部　直子さん（那智が丘）

●名取市国際交流実行委員会賞●

【絵てがみコンクール】

齋藤　智さん（那智が丘）

【絵画コンクール】

中学校の部
金本　小波さん（ゆりが丘）

小学校低学年の部
洞口　めいさん（下増田）

たくさんの素敵な絵画、絵てがみがありがとうございました。

一般の部
瀬野尾　純一さん（植松）

小学校高学年の部
玉川　陽子さん（相互台）

まちのわだい

韓国から名取へ
韓国・仁荷(いんは)工業専門大学の学生が市長を表敬訪問

宮城工業高等専門学校と学術交流協定を締結している韓国・仁荷工業専門大学から11名の学生と引率教員が、8月1日(金)市長室を表敬訪問しました。

仁荷工業専門大学の学生たちは、7月30日(水)～8月3日(日)の日程で宮城高専を訪問。宮城高専の学生と交流、授業見学のほか、企業や文化施設などの見学を行いました。

じょうほう掲示板

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。このニュースレターでは海外での交流体験だけでなく、市内で国際交流や多文化共生に関わっている方の活動や、名取にお住まいの外国人の方を紹介するなど、私たちの身近な話題も取り上げていきたいと考えています。

ぜひ皆様の身近な方たちの情報をお寄せください。名取市の国際交流に関するご要望もお待ちしております。

【情報はこちらへ】
〒981‐1292（住所記入不要）
名取市総務部総務課広報広聴係
電話384-2111内線317　FAX384-9030
Eメール：soumu@city.natori.miyagi.jp

もうひとつのホームステイ物語

平成18年に宮城高等歯科衛生士学院（仙台市青葉区）と姉妹校締結したバンクーバー・コミュニティカレッジ（カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州）から二人の交換留学生が宮城県に来ました。二人は歯科衛生士の勉強をする中、名取市愛島にお住まいで歯科衛生士学院に通う大久和佳奈さん宅にホームステイをし、日本の文化や習慣を学びました。

二人の留学生のお名前はアリッサさんとデニエルさん。6月28日(土)からまずはアリッサさんが大久さん宅でホームステイ、次の週よりデニエルさんも一緒に過ごすことになりました。二人は和佳奈さんと一緒に電車で通学し、日本の歯科衛生について勉強をしました。専門用語が多く、難しい日本語が多いことから帰宅してからも勉強をしていたようでした。

宮城高等歯科衛生士学院で研修中のアリッサさん（右）とデニエルさん（左）

アリッサさんとデニエルさんはとてもチャーミングで素直な女の子でした。一緒に買い物にも行って、食事はなるべく日本の食べ物を用意しました。二人とも何でもトライしてくれ、「おいしい！」と食べてくれました。アリッサさんは野菜と肉、デニエルさんは刺身が大好きで、手巻き寿司をしたときには各自好きなものを巻いて楽しんで食べていました。

家族でいろいろな話をするために、電子辞書を購入し、身振り手振りで毎日にぎやかに過ごしました。大久さんのお兄さんが趣味で勉強した手品を披露したところ「Oh, my got !! 」と感動していました。休日には蔵王のお釜と白石城を見学し、十二単や刀などを見て、日本の歴史に触れることができました。

おいしそうに鍋ものを頬張る二人。いろいろな日本食にトライしました。

最初、二週間のホームステイは長いと思っていましたが、あっという間に日が過ぎ、ホームステイ最後の夜にはプレゼントをした浴衣を着て花火をしている二人を見て、『明日帰ってしまうのか…。』と思い寂しくなりました。大久さんが二人にお別れの手紙を書いて渡したところ、泣きじゃくりながら何度も「ありがとう」と言い、家族みんなが感動し、ホームステイをして良かったと思いました。

7月11日(月)とうとうお別れの日となりました。アリッサさんが大久さん宛に手紙を書き、その手紙には「日本のお母さん、お父さん、友達の和佳奈、お兄ちゃんありがとう。必ずカナダに来てね。」と書いており、感動の涙でいっぱいのお別れでした。

大久家の家族には大きな１ページの歴史を残す出来事でした。

アリッサ、デニエル　ありがとう…。

９月８日（月）市内・市外を見学。
(写真上)洞口家住宅では昔の家屋に興味津々な生徒たち。
(写真下)松島まで遊覧船で移動中。

さまざまな体験

訪問中はホストブラザー、シスターと一緒に名取市大曲にある重要文化財洞口家で昔の農家の生活について学んだり、松島でこけしの絵付けを体験したりしました。

のっぺらぼうのこけしと筆を持ち、どんな顔を書けばいいのかしばらく動きが止まっていましたが、一筆入れるとそれぞれ思い思いに描き、約四十分後素敵なこけしが出来上がりました。

また名取市内の中学校に登校し、学校生活を体験しました。マウントウエイバリー校の生徒たちは日本語で自己紹介をした後、各クラスで授業を受けたり、部活動に参加したりしました。名取市内の中学生たちも始めは恥ずかしがっていましたが、琴の弾き方をマウントウエイバリー校の生徒に教え、日本の童謡「さくらさくら」を一緒に演奏したり、バスケットの試合でチームを組んだりと名取市内の中学生とマウントウエイバリー校の生徒との友好を深めることができました。

９月９日（火）の学校訪問での一コマ。琴の弾き方を教わりながら上手に演奏しました。

それぞれの思い

マウントウエイバリー校の生徒たちと出会って早くも五日目。九月十日（水）とうとう名取市を旅立つ日となりました。集合場所の名取駅では別れを惜しみながら、ホストファミリーと滞在最後の会話を交わしました。

生徒たちが来る前は何を食べさせればいいのかしら、英語が出来ないし、一体どんな話題をすればいいの…などと悩んだりしましたが、実際過ごしてみるととても充実し、あっという間の五日間だったと思います。気にしていた食事も「何を食べたい？」という問いかけに「普段食べているものが食べたい。」と答えていた生徒もいました。中には慣れない環境と長旅の疲れからか体調を崩してしまい、行事に参加できなかった生徒さんもいましたが、マウントウエイバリー校の生徒たちにとって、初めてのホームステイが名取市のホストファミリーの暖かい思いやりに包まれ過ごしたことはとても幸せだったことと思います。また、ホストファミリーの皆さんからは『毎日が楽しく良い思い出となった。』『五日間は短か過ぎる。』『もっと長くホームステイをしてほしい。』という声もありました。

マウントウエイバリー校の生徒たちがホームに入った後も、仙台駅に向かう電車が出発するまでホストファミリーの皆さんが見送っていたことがとても印象的でした。

最後にお忙しい中、マウントウエイバリー校の生徒たちのホストファミリーを快く引き受けていただき、ありがとうございました。

９月１０日（水）旅立ちの日。
「ありがとう。元気でね！」